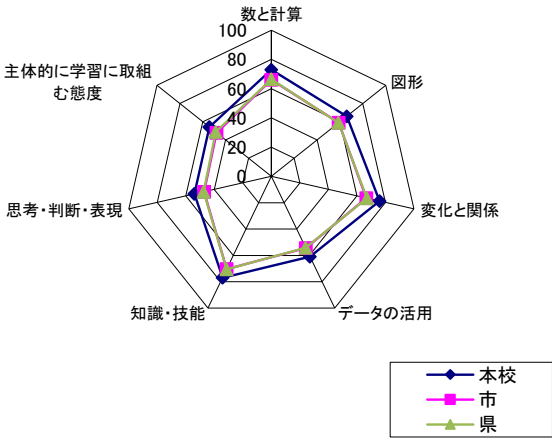


宇都宮市立横川中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	73.0	66.1	66.4
	図形	65.9	58.9	58.8
	変化と関係	75.9	66.6	67.0
	データの活用	61.0	54.4	54.2
観点	知識・技能	77.0	70.4	70.6
	思考・判断・表現	54.0	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	54.2	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○数と計算の平均正答率は、73.0%で、県の平均を6.6ポイント上回っている。 ○帯分数－真分数＝真分数(繰り下がりあり)の同分母分数の計算の正答率は、93.2%で、県の平均を13.1ポイント上回っている。 ●小数第一位×整数の計算の正答率は、68.5%で、県の平均を6.9ポイント下回っている。	・基礎的・基本的な計算の定着を図るために、日々の授業や朝の学習、家庭学習などで、継続的に四則計算の問題に取り組ませ、習熟を図るようにしていく。 ・加法・減法の計算では位取りを意識させ、小数点を揃えて筆算を正確にできるようにする。
図形	○図形の平均正答率は、65.9%で、県の平均を7.1ポイント上回っている。 ○直方体の辺に関する問題では、正答率が67.10%と、県の平均を5.9ポイント上回っている。 ●面積の単位の関係を説明する問題では、27.4%と、県の平均を8.2ポイント上回っているものの、誤答が目立つ。	・身の回りにある正方形や長方形の面積を実際に調べる活動を通して、日常生活と関連させ、面積の意味を理解し、考え方を順序よく説明する力を育んだり、面積の大きさについての感覚を身に付けたり、それらの大きさを表すための長さの単位についても推測させたりする。 ・授業の中で式や図・言葉など多様な方法で自分の考え方を表現したり、根拠を明らかにして説明したりする活動を計画的に取り入れるようにしていくことで、理解がさらに深まるようにする。
変化と関係	○変化と関係の平均正答率は、75.9%で、県の平均を8.9ポイント上回っている。 ○「伴って変わる2つの数量の関係を式に表す」問題の正答率は、57.5%で、県の平均を5.8ポイント上回っている。 ○2つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になったかを考えて比べる問題の正答率は、79.5%であり、県の平均を17.2ポイント上回っている。	・これまで指導・支援をしてきた基礎・基本の学習に加え、変化と関係に関連する単元の中で、式や図・言葉など多様な方法で自分の考え方を表現したり、根拠を明らかにしていかたり説明したりする表現活動を計画的に取り入れていく。
データの活用	○データの活用の平均正答率は、61.0%で、県の平均を6.8ポイント上回っている。 ○2つの折れ線グラフから、必要なことを読み取る問題の正答率は、75.3%と、県の平均を9.9ポイント上回っている。 ●図書室を、先週利用した人数と、今週利用した人数の違いを求めるのに必要な2次元表の欄を示し、その求め方を説明する問題では、県の平均を8.2ポイント上回っているものの、正答率は28.8%と低く、無解答は9.6%を占めた。	・多くの情報の中から、必要な情報だけを取捨選択したり、資料を読み取る力を身に付けるために、根拠を明らかにして説明したりする活動を計画的に取り入れていく。 ・全体的に正答率が低い問題でもあることから、基礎・基本を生かして、他教科の内容と結び付け、自分の生活を生かしながらより実践的で身近な問題を取り入れるようにする。 ・無解答の児童の書いたりまとめたりする抵抗感や困り感を少しでも減らすため、題意を正確に解釈した上で、数ある情報の中から必要な情報を選び出したり、組み合わせで記述し説明したりする学習を計画的に授業の中に取り入れていく。